

試聴会・訪問記掲載

河口無線冬のオーディオ三昧報告(2019.12.29)

河口無線では、ゴールデンウィーク、お盆休み、年末年始の休日などに合わせてオーディオ三昧という催しを行っています。本年もゴールデンウィーク、お盆休みに引き続き、冬のオーディオ三昧に行ってきました。開催要項は以下のとおりです。

2019年12月26日～2020年1月6日

時間：PM1:00～PM5:00

3F/4F ハイフィデリティ試聴室

<ラインアップ>



デノン プリメインアンプ PMA-SX1-LIMITED ¥858,000



DENON SACD/CD プレーヤー DCD-SX1-LIMITED ¥825,000



アンフィオン スピーカー ARGON-7-LS (ウォールナット) ¥767,800 (ペア)



当日のセッティング

<試聴の経過>

自由に試聴できる環境が整っていることから、4Fの試聴室を使わせていただきました。アンフィオン ARGON-7-LS（ウォールナット）は、正面は仮想同軸、裏面にはドローンコーンを配置したスピーカーで、価格を考えると素直で聴きやすい音がしています。今回は、アナログアキュライザーAACU-1000とCDおよびSACDを持参し、上記システムで、AACU-1000の効果を確認しました。

なお、アナログアキュライザーはDCD-SX1-LIMITEDの出力端子に装着したかったのですが、端子間が大きく開いており、装着が困難で、PMA-SX1-LIMITEDの入力端子に装着しました。



持参したハイドンのチェロ協奏曲とハイドンの弦楽四重奏は、アナログアキュライザー無でも、さわやかで聴きやすい音がしますが、アナログアキュライザーを装着しますと、緻密でしなやかな音になり、一層聴きやすくなります。

サンサーンスの交響曲3番では、アナログアキュライザー無では、肌理が粗くオーケストラの各パートの分離に今一つ難がありますが、アナログアキュライザーを装着しますと、音の分離と協和が向上して、緻密でしなやかな音になり、本来のSACDの音が蘇ったような印象です。このようなオーケストラ曲でのアナログアキュライザーの効果が大きいことは、自宅でも既に経験済です。

<まとめ>

河口無線の冬のオーディオ三昧に使用されている機器でもアナログアキュライザーの効果が確認されました。

以上